

台 太 郎 遺 跡

DAITAROU SITE

－賃貸住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書－

2017. 6

盛岡市教育委員会

例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市向中野2丁目3-7に所在する台太郎遺跡において、賃貸住宅建設に伴い実施した第89・90次発掘調査の報告書である。
- 2 第89次調査は、試掘調査として盛岡市遺跡の学び館が平成28年12月に実施した。第90次調査は、地権者の佐々木亨氏と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市遺跡の学び館が平成29年4月に野外調査、5月に出土資料整理を実施、佐々木亨氏が発掘調査及び報告書刊行に要する費用を支出した。
- 3 発掘調査及び報告書編集・執筆は、盛岡市遺跡の学び館津嶋知弘が担当者となり、補助員として阿部有子・千葉智子・村上幸子・山田聖子が従事した。
- 4 遺構平面位置は、過去の調査成果との整合性を図るため、世界測地系を日本測地系に変換・使用し、平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。調査座標原点〔X -35,500,000, Y +26,500,000〕(日本測地系座標値) = 〔RX ± 0, RY ± 0〕(調査座標値)
- 5 高さは、標高値をそのまま使用した。

6 土層断面図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。

7 遺構記号は次のとおりとした。

竪穴建物跡	RA
-------	----

8 古代の土器区分は、土師器・あかやき土器・須恵器に分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化煙焼成土器(坏類、甕類、鉢)に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は土師器に分類した。

9 出土遺物の実測図化・トレースは、(株)タックエンジニアリングが行った。

10 遺構及び出土遺物の写真撮影は、津嶋知弘が行った。

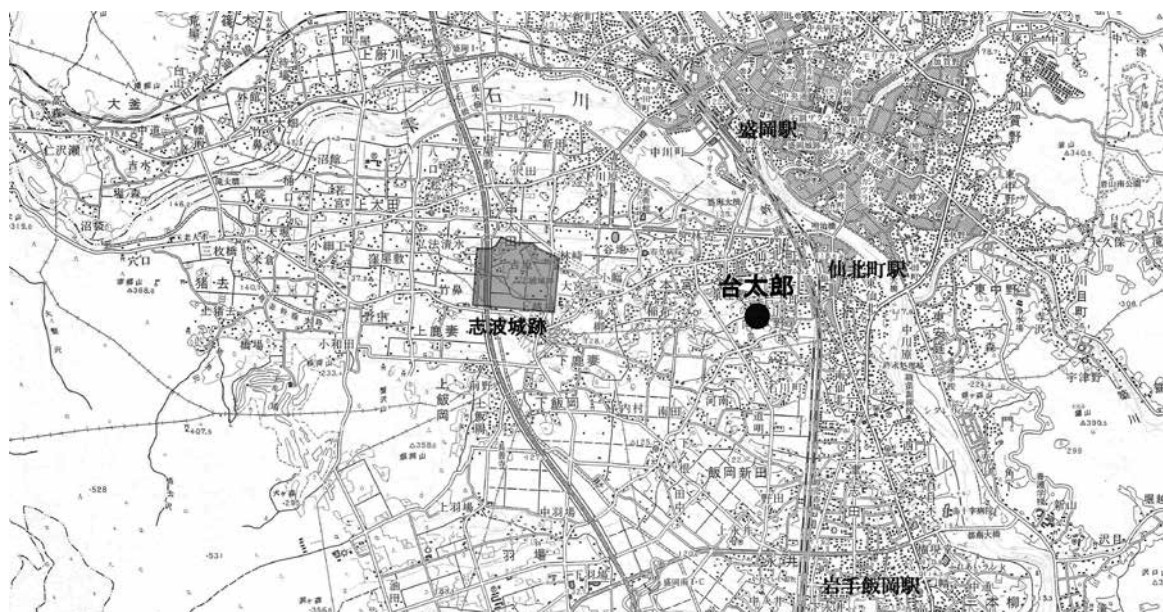
11 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。

目 次

I 遺跡の立地と概要	1
II 調査成果	2
報告書抄録	

台太郎遺跡発掘調査一覧表〔平成28・29年度〕

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	所在地	面積(m ²)	調査期間	遺構・遺物	調査原因	調査主体	報告書
台太郎	ODT	87	H28	本調査	向中野2丁目137-29の一部、137-28	61	2016.5.16~ 2016.6.3	古代竪穴建物跡1・竪穴状遺構1・溝跡1	個人住宅	市教委	別途報告
		88	H28	本調査	向中野2丁目137-29の一部	61	2016.5.16~ 2016.6.3	古代竪穴状遺構1・土坑1・溝跡1	個人住宅	市教委	別途報告
		89	H28	試掘調査	向中野2丁目3-7	29 (対象315)	2016.12.21	古代竪穴建物跡2	賃貸住宅	市教委	本書
		90	H29	本調査	向中野2丁目3-7	33	2017.4.10~ 2017.4.21	古代竪穴建物1	賃貸住宅	市教委	本書



遺跡位置図 (1 : 100,000)

I 遺跡の立地と概要

台太郎遺跡は、803年に造営された古代城柵「志波城」の東方約2.6kmに位置し、西方に飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡、南方に向中野館遺跡・細谷地遺跡が存在する。志波城跡からのびる低位沖積段丘が南に曲がる屈曲点にあたり、幅20～50m、比高差1m程度の細かな旧河道によって分断された微高地上に立地している。遺跡範囲は東西約800m、南北約500mである。

盛岡南新都市土地区画整理事業等に伴い岩手県埋蔵文化財センターと盛岡市教育委員会が実施した発掘調査により、古代の大集落、中世の居館や墓域、近世の村落などが確認されている（第1図）。

古代（奈良・平安時代）の竪穴建物跡（住居等）は、平成28年度末までに700棟以上を数え、また総柱の掘立柱建物跡（高床倉庫）や大溝なども確認され

ており、当時の「志波」「斯波」（しわ）地域最大の集落である。

中世（鎌倉～戦国時代）になると、13世紀後半、遺跡中央部に不整五角形プランの在地領主の居館が営まれる。また遺跡南部には土坑墓群、さらに諏訪神社の周囲を囲むような堀跡や、社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されており、15世紀頃まで存続した。

近世（江戸時代）に奥州道中（街道）が通じ、城下の玄関口にあたる仙北組町が開かれると、その西方にある向中野地域は町の郊外となった。掘立柱建物の曲屋（まがりや）跡や直屋（すこや）跡などが遺跡内で確認されており、稲作・畠作地帯の中に農家が点在する、「向中野村」の一部と考えられる。



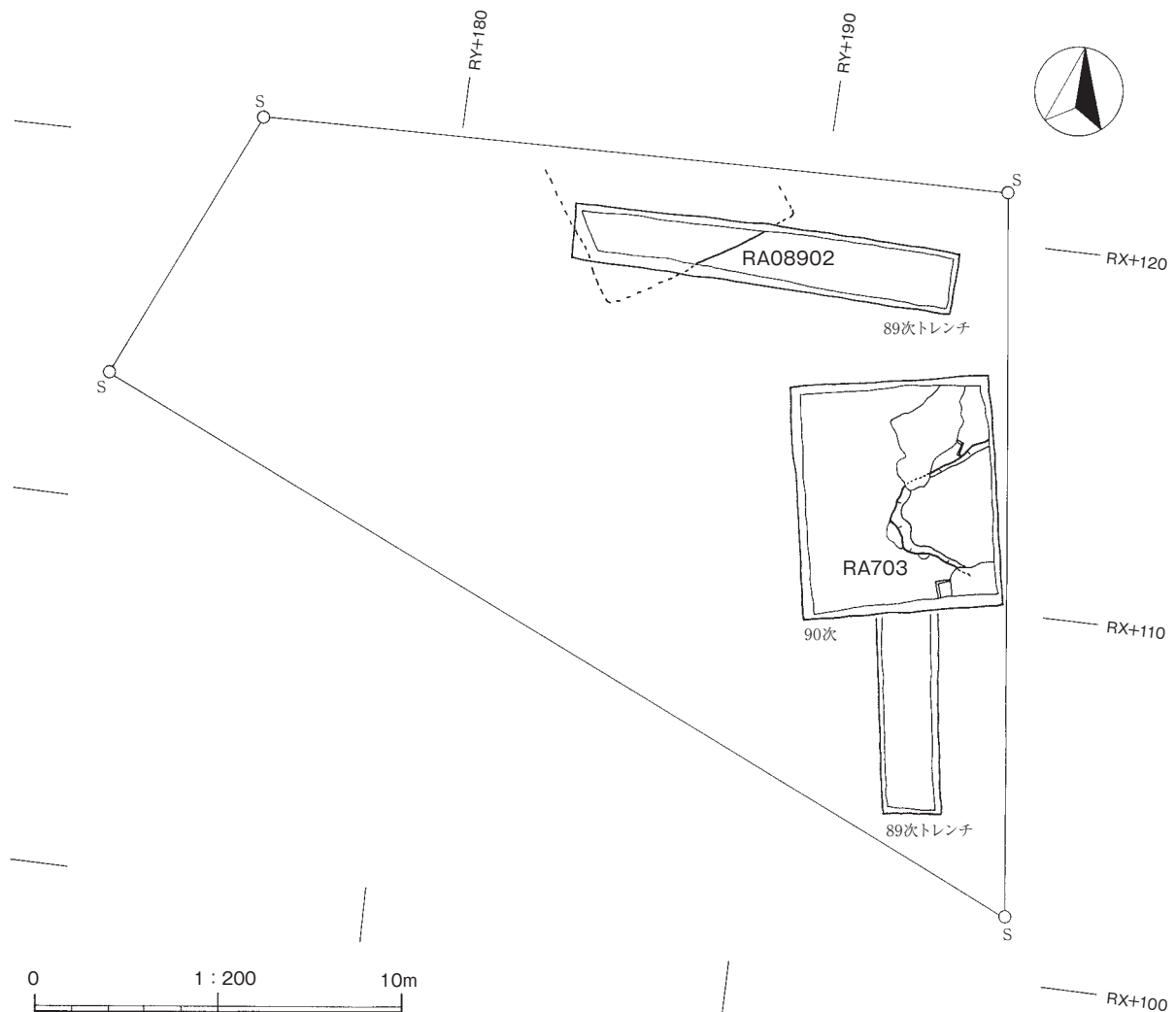
第1図 台太郎遺跡全体図

Ⅱ 調査成果

1. 第89・90次調査の経過

当該調査区は、遺跡の北部中央に位置している（第1図）。西仙北地区の西縁辺にあたり、土地区画整理事業等に伴う周辺の発掘調査で、古代の竪穴建物跡（住居等）が多数発見されている。平成28年9月に、不動産会社を仲介として地権者より賃貸住宅建設に係る協議及び発掘届の提出があり、既存建物解体時の重機の協力を得て、遺跡の学び館が12月に第89次調査（試掘）を実施、計画建物範囲内に古代の竪穴建物跡2棟が検出された。これを受け、施工業者が検出遺構の地下保存を前提に設計検討を行った

が、地耐力のボーリング調査結果から採用される地盤改良基礎の掘削深が1棟の竪穴建物跡に達するため、その部分の本発掘調査が不可避となった。平成29年2月、施工業者を仲介として地権者より工法検討後の設計に基づく発掘届の提出があり、2棟の竪穴建物跡のうち、1棟（RA08902）は通常基礎の下に地下保存、地盤改良基礎のかかる1棟は本調査を行うこととなり、発掘調査に係る費用負担の協定書を締結。遺跡の学び館が、4月より第90次調査（本調査）を実施した（第2図）。調査面積は33㎡。重機により表土を除去し、遺構検出を行った。



第2図 第89・90次調査全体図

2. 第90次調査の遺構と遺物

・RA703 竪穴建物跡 (第3図)

検出位置は調査区南東部。東半部が敷地外となっているが、平面形は不整隅丸方形と考えられ、北西-南東が2.9 m以上、北東-南西が3.0 m以上。検出面までの深さは敷地の現地盤上面から0.5 m、床面の深さは検出面から0.3 m。カマドは確認されず、敷地外に南東カマドがある可能性が考えられる。埋土はA層とB層に大別される。床面には構築土(L層)があり、特に東部に一辺2.6 m隅丸方形で深さ0.15～0.2 mの掘り込み部分がある。RA703の北西に近接して基盤の礫層が部分的に隆起する箇所があることから見て、小型住居としての竪穴の掘削途中で規模の拡大に転換したものの、すぐに硬い礫層に掘削が阻まれ、平面形も不整形になってしまった、という経過が想定される。

出土土器(第4・5図)は、土師器ロクロ内黒坏・碗、須恵器坏・大甕・壺、あかやき土器坏・高台付坏が特徴的に見られる。また、炭化材、鉄製品(釘か)、鉄滓(てっさい)、フイゴ羽口(はぐち)先端部なども出土しており、鉄に関連した生産活動があつと推定され、工房的機能を持った建物の可能性がある。

3. 調査の総括

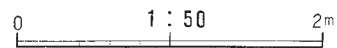
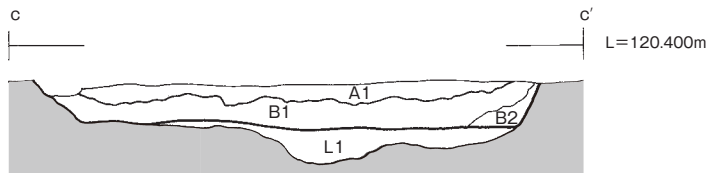
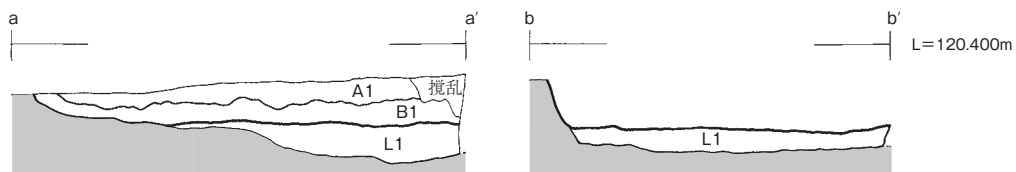
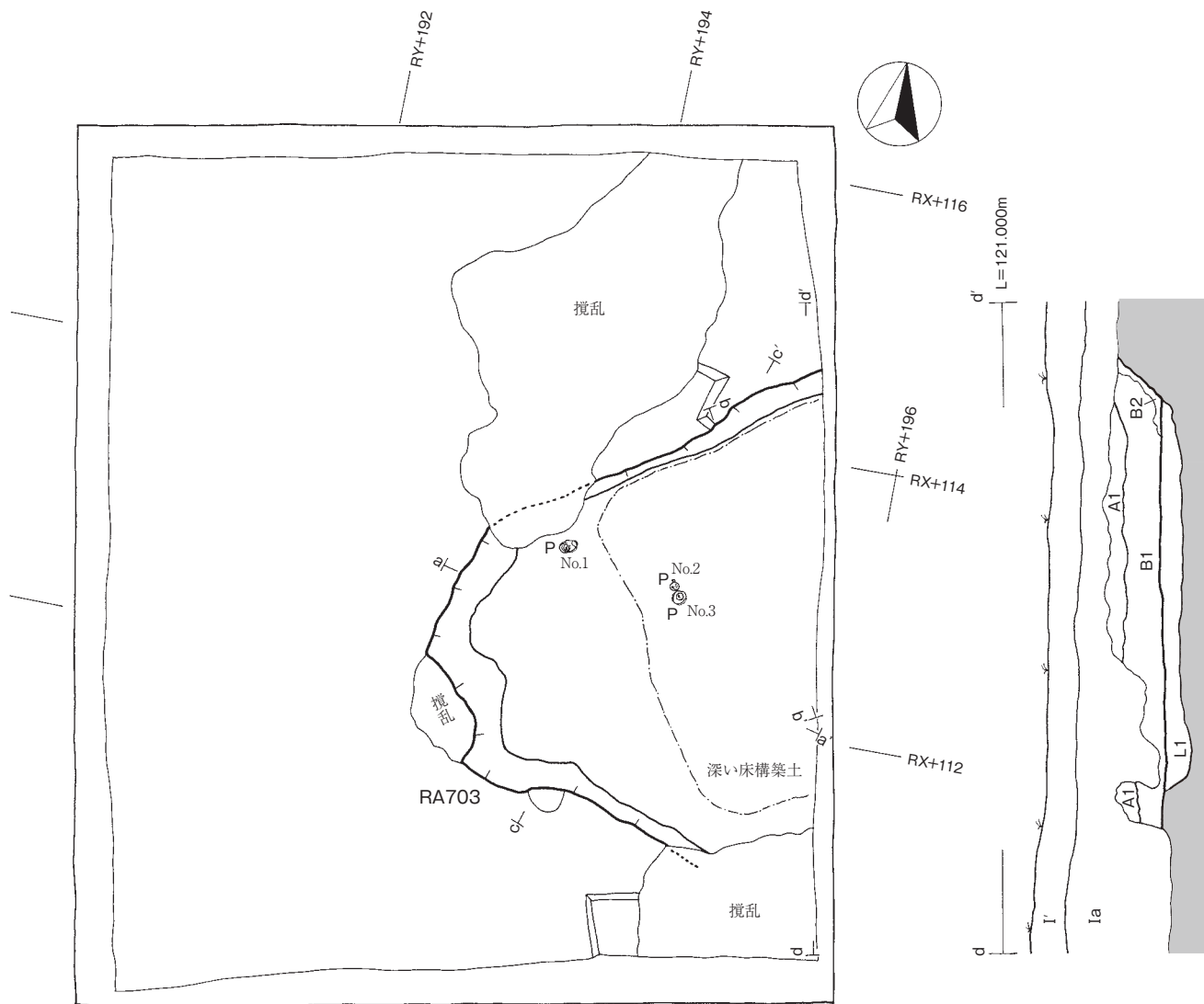
第90次調査で精査されたRA703 竪穴建物は、一辺3.0 m以上(おそらく4 m程度)の不整隅丸方形の中型住居で、敷地外に南東カマドがあると推定される。その年代は、高台(こうだい)が中実で回転糸切りとなっている高台付坏や、底径の小さい坏が床面付近より出土していることから、10世紀後葉頃と考えられ(津嶋2013・2015)、盛南地区周辺では類例が少ない年代の貴重な調査例と言える。

【引用参考文献】

- 津嶋知弘 2013「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その1) - 雫石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に -」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.2 (盛岡市ホームページ)
- 津嶋知弘 2015「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その2) - 雫石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料② -」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.4 (盛岡市ホームページ)
- 盛岡市教育委員会編 2016 『志波城跡と蝦夷(エミシ)』盛岡市文化財シリーズ第43集

【関連発掘調査報告書】盛岡市教育委員会刊行

- 2010年11月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ - 盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査③ - 台太郎遺跡 -』
〔台太郎遺跡9～14・17・20・21・24・25・27～34次〕
- 2012年5月『台太郎遺跡 - 「フローラルアベニュー向中野」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 -』〔台太郎遺跡73次〕
- 2012年9月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ - 盛岡南新都市開発整備事業平成13～18年度発掘調査① - 台太郎遺跡 -』
〔台太郎遺跡37～39・42・43・45～49・56・57次〕
- 2014年3月『台太郎遺跡 - 株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書 -』〔台太郎遺跡77次〕
- 2014年9月『盛岡市内遺跡群 - 平成24・25年度発掘調査報告書 -』〔台太郎遺跡78・79次〕
- 2015年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅶ - 盛岡南新都市開発整備事業平成19～21年度発掘調査報告書 -』
〔台太郎遺跡59～65・67～70次〕
- 2015年9月『台太郎遺跡 - 「フローラルアベニュー向中野2丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 -』〔台太郎遺跡80次〕



遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色(JIS)	土性(略号)	土色(JIS)	土性(略号)	状態	%			
RA703	A1	10YR3/3暗褐色	SiCLシルト質埴壤土	10YR4/6褐色	SiLシルト質壤土	粉~粒状	10	硬	密	炭化物少し混じる
竪穴建物跡	B1	10YR4/6褐色	SiLシルト質壤土	10YR3/2黒褐色	SiCLシルト質埴壤土	粒~塊状	40	中~硬	中~密	炭化物多く混じる, 焼土少し混じる
	B2	10YR4/6褐色	SiLシルト質壤土	10YR3/2黒褐色	SiCLシルト質埴壤土	塊状	20	中~硬	中~密	炭化物少し混じる, 壁崩壊土
	L1	10YR4/6褐色	SiLシルト質壤土	10YR3/3暗褐色	SiCLシルト質埴壤土	粒~塊状	50	中~硬	中~密	床構築土, 炭化物少し混じる

第3図 第90次調査RA703竪穴建物跡



第90次調査全景 (北東から,白線がRA703)



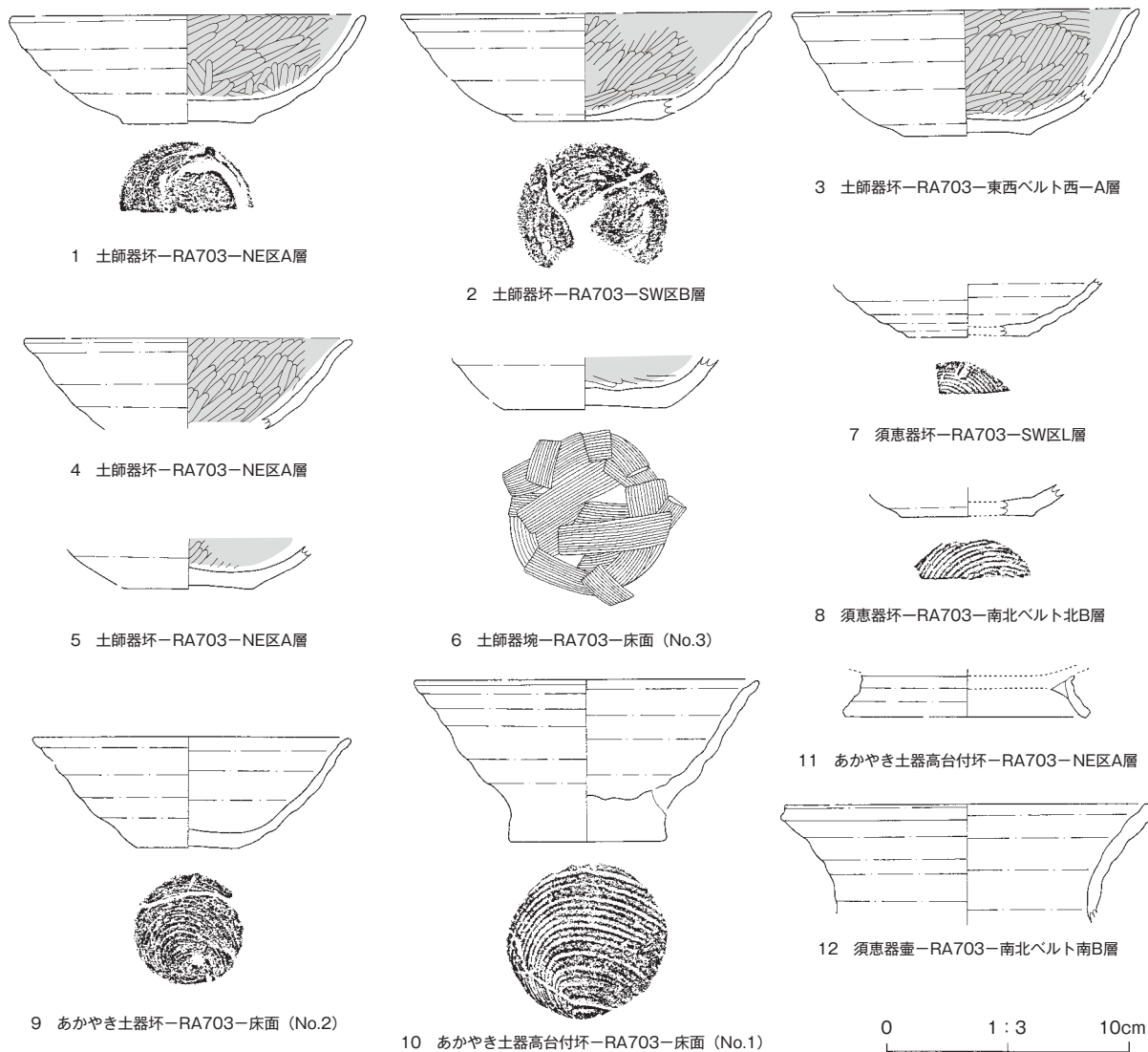
RA703床面出土土器



RA703床構築土掘り上げ状況 (北から)

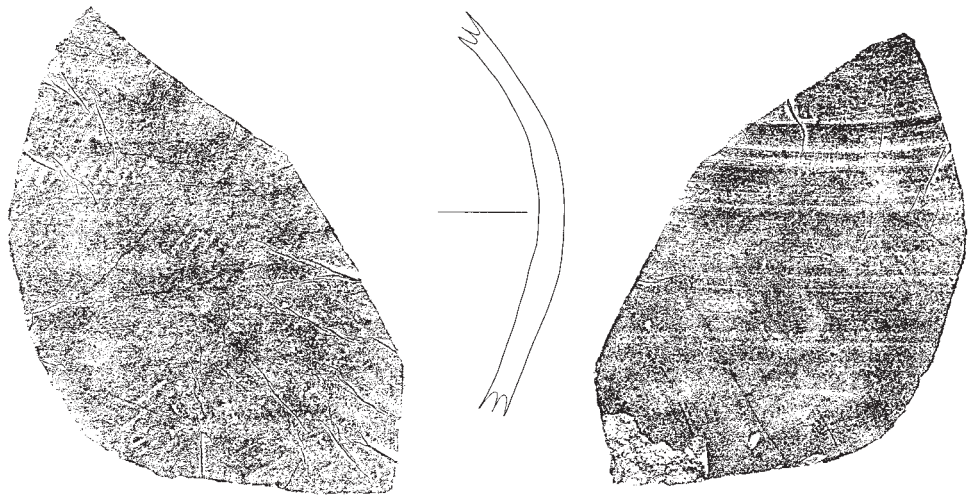


RA703竪穴建物跡(西から)

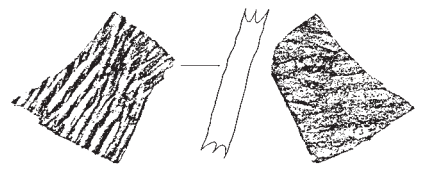


番号	写真	遺構名	台帳No.	形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ					底部切離等	器面調整		特徴等	
				区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径/底径		口径/器高	外面		内面
1	8p	RA703	44	土師器	杯	NE区	A	4.5	14.8	-	5.4	2.7	3.3	回転糸切り無調整	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	内外面やや磨減
2	8p	RA703	94	土師器	杯	SW区	B	4.5	15.2	-	6.0	2.5	3.4	回転糸切り無調整	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	胎土に雲母多く混じる、内外面やや磨減
3	8p	RA703	54	土師器	杯	東西ベルト西	A	5.2	14.2	-	5.2	2.7	2.7	回転糸切り(磨減)	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	胎土に雲母多く混じる、内外面やや磨減
4	-	RA703	34	土師器	杯	NE区	A	[3.8]	13.6	-	-	/	/	底部欠損	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	胎土に雲母多く混じる
5	-	RA703	35	土師器	杯	NE区	A	[1.6]	-	-	5.4	/	/	回転糸切り(磨減)	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	内外面やや磨減、胎土に雲母多く混じる
6	8p	RA703	4	土師器	碗	土器No.3	床面	[2.1]	-	-	6.8	/	/	ヘラナデ再調整	ロクロ	ヘラミガキ+黒色処理	全体にやや磨減
7	8p	RA703	90	須恵器	杯	SW区	L	[2.2]	-	-	5.0	/	/	回転糸切り無調整	ロクロ	ロクロ	白色胎土
8	8p	RA703	124	須恵器	杯	南北ベルト北	B	[1.0]	-	-	5.6	/	/	回転糸切り無調整	ロクロ	ロクロ	白色胎土
9	8p	RA703	3	あかやき土器	杯	土器No.2	床面	4.6	13.0	-	4.2	3.1	2.8	回転糸切り無調整	ロクロ	ロクロ	
10	8p	RA703	1	あかやき土器	高台付杯	土器No.1	床面	6.7	14.2	-	6.4	2.2	2.1	台部、回転糸切り無調整	ロクロ	ロクロ	中実高台
11	-	RA703	47	あかやき土器	高台付杯	NE区	A	[1.8]	-	-	10.0	/	/	底部欠損	ロクロ	ロクロ	台部のみ
12	8p	RA703	116	須恵器	壺	南北ベルト南	B	[4.5]	15.0	-	-	/	/	口頭部のみ	ロクロ	ロクロ	内外面自然釉

第4図 第90次調査出土土器(1)



13 須恵器壺-RA703-南北ベルト南B層



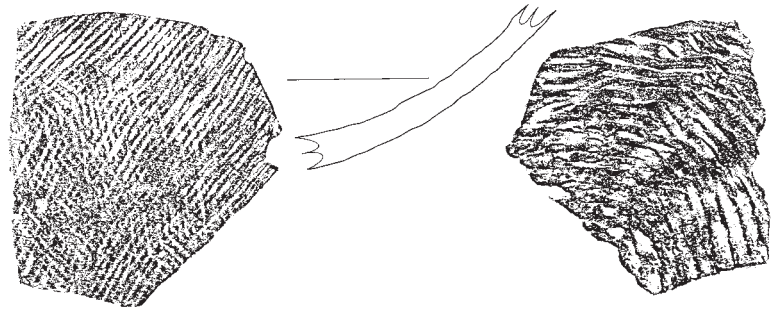
14 須恵器大甕-RA703-東西ベルト東A層



16 須恵器大甕-RA703-SE区A層



15 須恵器大甕-RA703-SE区A層



17 須恵器大甕-RA703-SE区A層

0 1:3 10cm

番号	写真	遺構名	台帳No.	形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ					底部切離等	器面調整		特徴等	
				区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径/底径		口径/器高	外面		内面
13	8p	RA703	117	須恵器	壺	南北ベルト南	B	-	-	-	-	/	/	体部破片	タタキ+ロクロ	ロクロ+ヘラナデ	外面一部自然釉
14	8p	RA703	62	須恵器	大甕	東西ベルト東	A	-	-	-	-	/	/	体部破片	タタキ(平行文)	タタキ(平行文)	
15	8p	RA703	86	須恵器	大甕	SE区	A	-	-	-	-	/	/	体部破片	タタキ(平行文)	タタキ(青海波文)	
16	8p	RA703	81	須恵器	大甕	SE区	A	-	-	-	-	/	/	体部破片	タタキ(平行文)+ヘラケスリ	タタキ(青海波文)	
17	8p	RA703	85	須恵器	大甕	SE区	A	-	-	-	-	/	/	丸底	タタキ(平行文)	タタキ(平行文)	底部付近

第5図 第90次調査出土土器(2)



土師器坏 (No.1)



土師器坏 (No.2)



土師器坏 (No.3)



土師器碗 (NO.6, 床面土器)



あかやき土器坏 (NO.9, 床面土器)



あかやき土器高台付坏 (NO.10, 床面土器)



須恵器坏・壺・大甕破片



フイゴ羽口先端部 (左)、鉄滓 (中央・右)

RA703出土遺物

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせき							
書名	台太郎遺跡-賃貸住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書-							
編著者名	津嶋知弘							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：盛岡市教育委員会）							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600							
発行年月日	2017年6月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)			(㎡)	
だいたろういせき 台太郎遺跡 (ODT)	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野 いち・に・ごちようめ 1・2・5丁目	03201	LE16-2296	39°	141°	89次	29	賃貸住宅建設
				40′	08′	2016.12.21		
				57″	25″	90次 2017.4.10 ～2017.4.21	33	賃貸住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
台太郎89次	集落	古代		竪穴建物跡 2		土師器・須恵器など		試掘確認
台太郎90次	集落	古代(平安時代)		竪穴建物跡 1		土師器, 須恵器, あかやき土器, 鉄製品, 鉄滓, フイゴ羽口先端部, 炭化材		本調査
要約	台太郎遺跡は、7～10世紀の竪穴建物跡（住居等）が700棟以上発見されており、9世紀初頭造営の古代城柵「志波城」の東方に位置する盛南地区で最大の古代集落である。本書掲載の調査では、平安時代10世紀後葉の竪穴建物跡1棟を精査し、特徴的な遺物が出土しており、遺跡北部中央の集落の一端を明らかにすることができた。							

台太郎遺跡

－賃貸住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書－

平成 29 年 6 月 30 日

編集 盛岡市遺跡の学び館

〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1

電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605

E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp

URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/>

遺跡の学び館

検索

発行 盛岡市教育委員会

印刷 株式会社 光文社

〒 020-0106 盛岡市東松園 3-12-1

